

小学校 第4学年 道徳科 学習指導案

埼玉県川口市立木曽呂小学校
教諭 渡辺 真

主題名 正直でいることの大切さ

教材名 14 だまっていればわからない(1時間)

内容項目 A 正直、誠実

本時の
ねらい 「ぼく」の立場になって演じる体験的な学習をととして、正直であることの大切さに気づき、
過ちや失敗は素直に改め、正直に明るい心で生活しようとする実践意欲と態度を育てる。

指導時期 10月ごろ

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

1. 「動画」の活用

本教材のデジタルコンテンツには、役割演技を行う際のポイントが示された「動画」が収録されている。これらの「動画」を見ることで、児童は役割演技の方法を理解して、行うことができる。

また、役割演技を行う際に、教師の声かけも重要である。特に道徳の授業が苦手な先生にとっては、これらの「動画」を視聴することで、ポイントをおさえて授業を行うことができるようになる。

2. 「デジタルワークシート」の活用

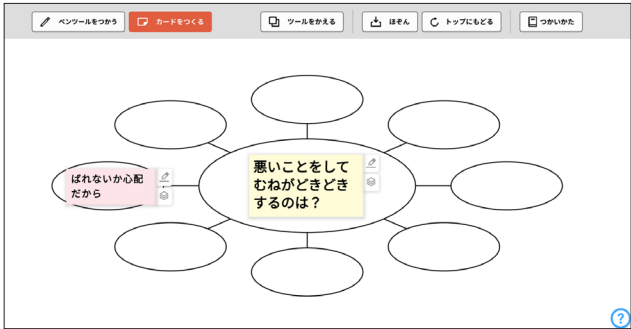
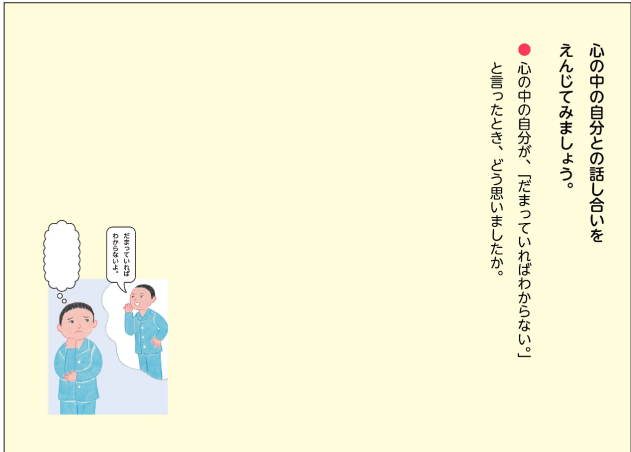
役割演技を行う際に大切なのが、「場面の状況」を確認することである。今どのような状況で、何を考え、主人公の気持ちになってどのように演じるべきなのかをしっかりと把握する必要がある。そこで、「指導者用デジタル教材」の「デジタルワークシート」を使用することで、それらを見ながら「場面の状況」を確認することができる。

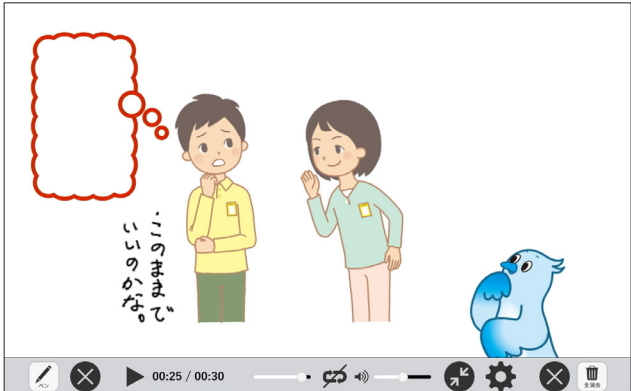
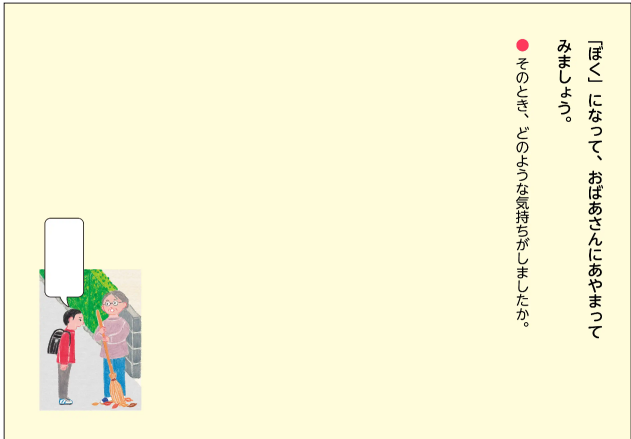
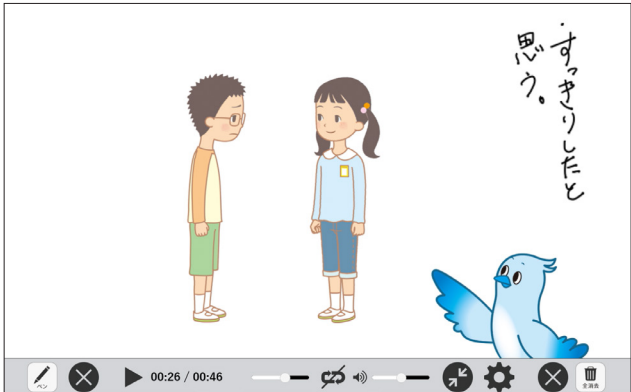
3. 「思考ツール」の活用

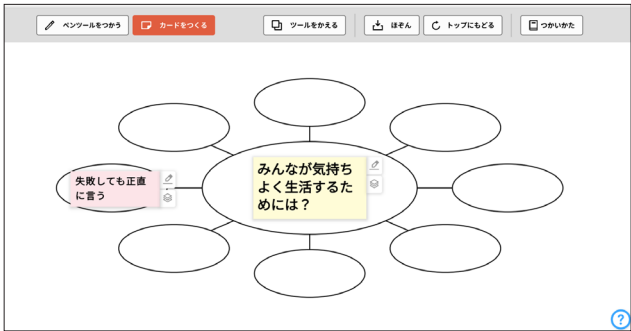
「指導者用デジタル教材」には、「ベン図」や「Xチャート」をはじめとするさまざまな「思考ツール」が豊富に収録されており、本時では主に「ウェビング」を使用する。児童が授業で実際に「思考ツール」を使ってみることで、そのよさに気づき、主体的に学ぶ態度が育つ。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	T：悪いことをしたのに、黙っていたことはありますか。 T：そんなとき、胸がドキドキしていませんか。 T：悪いことをして胸がドキドキするのは、なぜでしょう。 C：悪いことがばれないか、心配だから。	●ドキドキする理由について「ウェビング」に整理する。 
展開	1. 本文を朗読する前に、あらすじを確認する。 2. 教材を読む。 3. 教科書p.63の絵がどんな場面かを確認し、心の中の自分との話し合いを演じる。	●「指導者用デジタル教材」p.62右下の「まなびリンク(二次元コード)」から「教材の解説」を開き、あらすじを確認する。  ●「指導者用デジタル教材」のツールバーのいちばん上にある「朗読」アイコンをクリックし、「朗読音声」を流す。 ●流している間に、机間巡視をして児童の様子を把握する。  ●「指導者用デジタル教材」p.63の「デジタルワークシート」を提示し、どのような状況なのかを把握できるようにする。 

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	T：心の中の自分との話し合いを演じてみましょう。	●「指導者用デジタル教材」p.63左下の「動画」アイコンをクリックする。 ●「動画」を視聴して、役割演技の流れを確認したあと、実際にやってみる。 
	T：どうして「どきどき」なの。 C：いけないことをしてしまったのに、隠そうとしているから。 4. 教科書p.64の絵がどんな場面かを確認し、「ぼく」になって演じてみる。	●役割演技を行ってみた感想や、役割演技を見ていた感想を共有する。「ペン」ツールで書き込んでもよい。 ●「指導者用デジタル教材」p.64の「デジタルワークシート」を提示し、どのような状況なのかを把握できるようにする。 
	T：「ぼく」になっておばあさんに謝ってみましょう。	●「指導者用デジタル教材」p.64右下の「動画」アイコンをクリックする。 ●「動画」を視聴して、役割演技の流れを確認したあと、実際にやってみる。  ●役割演技を行ってみた感想や、役割演技を見ていた感想を共有する。「ペン」ツールで書き込んでもよい。

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	5. 正直に明るい心で生活することの大切さについて確かめる。 T：みんなが気持ちよく生活するためには、どのようなことに気をつければよいでしょう。 C：失敗しても自分のやったことは正直に言う。	●「思考ツール」の「ウェビング」に「みんなが気持ちよく生活するためには」というテーマで児童の考えを整理する。 
終末	6. 本時の学習をふり返る。 ●教師の説話例として、「正直の頭に神宿る」という言葉の意味を伝えることも考えられる。	●ふだん使用している学習支援ソフトウェアにふり返りを記入するようにしてもよい。 ●「学習者用デジタル教材」の「ワークシート」を活用する方法も考えられる。

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

●「動画」による役割演技のサポート

役割演技をする際に、「教師と児童で演じるとき」や「どちらも児童が演じるとき」などパターンがいくつもある。特に「どちらも児童が演じるとき」には、児童が「場面の状況」をしっかりと把握して行わないと、とまどってしまうことがある。その際、これらの「動画」を視聴することで、状況やポイントを把握したうえで演技を行うことができる。特に二つめの「動画」には、「入れ替わって演じてみよう」という指示も入っており、とてもわかりやすい。

また、「動画」には「ペン」ツールを活用して書き込むこともできるため、「動画」を見るだけでは補えないような、クラスの授業で出されるさまざまな意見のメモや、児童からの発言をそこに追記するなど、柔軟に使用することが可能である。

●「デジタルワークシート」の投影と板書の拡張

「指導者用デジタル教材」の「デジタルワークシート」をテレビに投影し、「ペン」ツールで書き込むことで、黒板以外の場所も板書として広く使うことができるようになる。

また、「指導者用デジタル教材」の下部にあるタブの操作で、別の「デジタルワークシート」に切り替えられるため、もう一度テレビに投影してふり返ることもできる。

●「思考ツール」の活用による考えの可視化

導入や展開の場面で「思考ツール」を活用し、児童の考えを整理する。意見を視覚的に整理して共有することで、多様な考えを引き出すことができる。児童が授業で実際に「思考ツール」を使ってみることで、その便利さやよさに気づき、主体的に学んでいこうとする態度が育つことにつながる。